

ポジティブ感情のプロトタイプ ——日本の大学生・大学院生を対象として——

筑波大学大学院人間総合科学研究科 菅原 大地¹⁾

お茶の水女子大学基幹研究院基幹教育系 武藤 世良

筑波大学人間系 杉江 征

Prototypical positive emotions in Japanese university and graduate students

Daichi Sugawara (*Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8577, Japan*)

Sera Muto (*General Education Division, Faculty of Core Research, Ochanomizu University, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8610, Japan*)

Masashi Sugie (*Faculty of Human Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8577, Japan*)

What emotion words are regarded as representing positive emotions in Japan? To examine this question, we collected 216 words that were considered to express some form of positive emotion from some Japanese dictionaries and previous studies of positive emotions. Forty university and graduate native Japanese students (18 male and 22 female) rated the extent to which they regarded each word as representing a positive emotion. The results indicate that most of the words used in the study were regarded as being positive emotion words. Although many of the positive emotion words used in prior studies have, undoubtedly, been words for prototypical Japanese positive emotion words, some have also been less prototypical.

Key words: positive emotions, prototype, emotion words

はじめに

私たちは日々の生活のなかで、様々なポジティブ感情を体験し、その体験を言葉によって表現する。本研究は、日本語において、どのような言葉がポジティブ感情を表す感情語 (emotion words) としてみなされているのかを検討する。

ポジティブ感情やその種類について、これまで多くの研究者が異なる観点から多様な見解を述べてき

た。ポジティブ感情の代表的な研究者である Fredrickson (1998) は、ポジティブ感情を喜び (joy)、興味 (interest)、満足 (contentment)、愛情 (love) の4つに分類し、それぞれの機能を説明した。例えば、喜びは、愉快 (amusement) や高揚感 (elation)、嬉しさ (gladness) といった感情と関連した、生理的な覚醒度の高いポジティブ感情であり、その機能として、創造性を高め、身体的な遊びだけでなく、知的な遊びなどの様々な遊びを誘発することを挙げている。また、興味は、好奇心 (curiosity) や興奮 (excitement) といった感情を含み、内発的動機づけに基づいた探索的な行動を誘発するとされている (Deci & Ryan, 1985)。後に、Fredrickson (2009)

1) 本調査の実施にあたり、ご協力いただきました中野莉帆様、五味奈々子様、齊藤雄大様、中村香穂様、山本珠璃様に謝意を表します。

は上記に記したポジティブ感情から満足を除き、新たに感謝 (gratitude)、鼓舞 (inspiration)、安らぎ (serenity)、希望 (hope)、誇り (pride)、畏敬 (awe) を加え、ポジティブ感情は10個に分類されると提唱した。ただし、この分類は、これまでの個別のポジティブ感情に関する知見をまとめたものであり、実際にポジティブ感情の分類に関する研究を行なったものではない。

ポジティブ感情毎の機能という観点から、ポジティブ感情を検討した研究として、Griskevicius, Shiota, & Neufeld (2010) が挙げられる。Griskevicius et al. (2010) は、ポジティブ感情には適応のための機能が備わっていると考え、進化的な観点から養育的愛情 (nurturant love)、予期的熱中 (anticipatory enthusiasm)、愛着的愛情 (attachment love)、愉快、畏敬、満足の6つにポジティブ感情を分類した。また、Shiota et al. (2014) は、ポジティブ感情の機能差についてまとめ、誇り、愉快、養育的愛情、愛着的愛情、満足、熱中 (enthusiasm)、畏敬、情欲 (sexual desire) の8つにポジティブ感情を分類した。Shiota et al. (2014) は、上記8つの感情語の頭文字を取り "PANACEAS (万能薬)" としてまとめ、感情毎の機能を詳細に検討していくという、ポジティブ感情研究の1つの方向性を示した。

個別のポジティブ感情は、生理的変化や身体表出の側面からも検討されてきた。例えば、Shiota, Neufeld, Yeung, Moser, & Perea (2011) は、Griskevicius et al. (2010) の分類を基に、養育的愛情、予期的熱中、愛着的愛情、愉快、畏敬を画像刺激によって喚起させ、各感情が自律神経系 (心拍間隔や呼吸数) にもたらす影響を検討した。その結果、5つのポジティブ感情毎に、自律神経系の反応が異なることが示された。さらに、Campos, Shiota, Keltner, Gonzaga, & Goetz (2013) では、ポジティブ感情に関する先行研究 (e.g., Algoe, Haidt, & Gable, 2008; Berenbaum, 2002) を基に、愉快、畏敬、満足、感謝、興味、喜び、愛情、誇りの8つの感情を取り上げた。そして、実験参加者に各ポジティブ感情に対応するノンバーバルな表現をするように教示した。各感情の表情を比較した結果、感情間で表情に違いがあることが明らかとなった。つまり、自律神経系のみならず、感情表出においても、ポジティブ感情毎に違いが見られることが示唆された。

また、ポジティブ感情に関して、認知的評価の観点から検討した研究もある。例えば、Tong (2015) は、13個 (愉快、畏敬、奮起 (challenge)、慈悲 (compassion)、満足、感謝、希望、興味、喜び、安

心感 (relief)、熱愛 (romantic love)、安らぎ) のポジティブ感情の認知的評価の差異を実証的に検討している。

このように、近年、欧米圏を中心に多様なポジティブ感情に関する研究が、機能、生理的変化、身体表出、認知的評価といった様々な観点から急速に進んでいる。しかしながら、多くの研究は、先行研究で扱われてきたポジティブ感情を前提としているため、これまでに取り扱われていないポジティブ感情や、研究報告が乏しいポジティブ感情も、特に文化差に着目した場合、実際には多く存在すると考えられる。これまで、感情に関する文化差の知見は数多く報告されてきた (e.g., Diener, Diener, & Diener, 1995; Tsai, Knutson, & Fung, 2006)。よって、欧米文化圏においては、その感情を経験する当事者にとって主観的に気持ちの良い、まさに“ポジティブな”ものとして捉えられている感情であっても、他の文化圏においては、ポジティブなものとしてあまり捉えられていないという可能性も十分に考えられる (e.g., Kitayama, Markus, & Kurokawa, 2000; Kitayama, Mesquita, & Karasawa, 2006; Markus & Kitayama, 1991)。

このような問題を解決するための一つの方向性として、そもそもある特定文化圏には、ポジティブ感情を表す言葉がどのくらい豊富にあり、その文化圏の人々はどうような感情をポジティブ感情として捉えているのか、という、ある特定文化圏におけるポジティブ感情概念の典型あるいはプロトタイプ (prototype: e.g., Shaver, Schwartz, Kirson, & O'Connor, 1987) に着目することが挙げられる。

海外の研究展開を受け、本邦においても、ポジティブ感情への関心や研究意欲は年々高まりつつあると言える (e.g., 武藤, 2014; 菅原・杉江, 2015)。しかしながら、欧米文化圏においてポジティブ感情としてみなされているものを、東洋文化圏であり、かつ日本語を公用語とする本邦において、そのまま全てポジティブ感情として扱うことが適切であるとは必ずしも言い切れない。そのため、日本文化におけるポジティブ感情概念の典型あるいはプロトタイプに着目し、日本語の多くのポジティブ感情を表す言葉を包括的に検討することは、本邦においてポジティブ感情とは何かを考えるための基礎的知見となるに留まらず、今後、ポジティブ感情に関する文化差を検討する上でも重要な課題であると考えられる。

ただし、本邦においても日本語の感情概念を検討した研究は既にいくつか存在している (e.g., 落合, 1993, 1994; 齊藤・中村, 2003)。例えば、落合

(1993) は、大学生を対象に、日常生活で感じる感情語を自由記述によりボトムアップに収集し、因子分析により、大学生の日常生活における感情が大きく9つのカテゴリーに分類される可能性を示している。しかしながら、落合(1993)は、感情全般について検討しているため、どのような感情が大学生にとってポジティブ感情として捉えられているのかは明らかでない。

以上のことから、本邦のポジティブ感情研究における問題点が2つ挙げられる。1つ目は、日本語ではそもそもどのような感情語がポジティブ感情としてみなされているのかを明らかにした知見は乏しいことが挙げられる。そのため、本邦においてポジティブ感情を研究する際に、例えば検討する感情語の選択にあたってポジティブ感情としてのプロトタイプ性(典型性)が考慮されないおそれがある。2つ目に、日本の感情語について検討した研究では、Fredrickson (2009) や Shiota et al. (2014)、Tong (2015) が検討した英語の感情概念と一般的に対応すると思われる日本語の感情概念が含まれておらず(例えば、awe に対して畏敬)、後に文化比較的検討を行なう際の支障になると考えられる。

ポジティブ感情のプロトタイプを検討するには、対象者に直接、ある概念がポジティブ感情としてどのくらいみなせるかを尋ねるのが有益な手法の一つであると考えられる。例えば、Shaver et al. (1987) は、プロトタイプ的な方法論に基づき英語の種々の感情概念を整理するにあたり、先行研究の複数の感情語リストから選定した213語それぞれが、どのくらい感情(emotion)としてみなせるかという、感情としてのプロトタイプ性(prototypicality)の程度をアメリカ人の大学生を対象に検討している。このプロトタイプ性が高いほど、その感情語が感情概念の“良い例(good examples)”, すなわち典型として捉えられていると解釈できる(なお、Shaver et al. (1987) では、アメリカ人大学生において、love(愛情)、anger(怒り)、hate(憎しみ)といった感情語が感情としてのプロトタイプ性が最も高かったことが示されている)。

そこで、本研究では Shaver et al. (1987) の手法を参考に、本邦においてそもそもどのような感情語がポジティブ感情としてみなされているのかを明らかにすることを目的とする。また、本研究では日本語のポジティブ感情語を網羅的に検討するが、感情語の中には現代ではあまり使用されず馴染みのないものも多くある。現代の多くの日本人にとって意味のよくわからない感情語について、ポジティブ感情としてのプロトタイプ性の評定を求めることは回答

者にとって難しい課題である可能性がある。そこで、本研究では、現代におけるそれぞれの感情語の理解度についても補足的に検討する。

なお、本研究の調査対象者は青年期後期の大学生および大学院生とする。内閣府(2008)によれば、日本人の幸福度は高校生まで高い推移を示すが、大学生および大学院生を含む青年期後期から低い推移を示す。そのため、年代差の推移が大きく変動する青年期後期を対象にポジティブ感情のプロトタイプ性について調査を行い、主観的幸福感と密接な関連を持つポジティブ感情(e.g., Diener et al., 1995)の典型にどのような感情があるのかを明らかにすることは、将来的に日本人の幸福感向上または低下の抑制に関する示唆にもつながると考えられる。

方 法

調査協力者

日本の大学生・大学院生40名(男性18名、女性22名: 平均年齢22.5歳, $SD=1.44$, レンジ: 19–27)を対象に質問紙調査を実施した。関東地方の国立大学1校と、北陸地方の国立大学1校を対象とした。なお、質問紙のフェイスシートには性別や年齢を尋ねる質問項目のみが書かれていたが、調査時に留学生に回答を控えてもらうように教示したため、有効回答者は全て日本人(もしくは日本語母語話者)であるとみなして検討を行った。

倫理的配慮

本研究は、第一著者が所属する研究倫理委員会の承認を得て実施された。質問紙のフェイスシートには、調査は匿名性が保たれること、調査への協力は自由意思に基づくこと、質問紙の提出後も回答を撤回することができること、調査に回答しないことにより不利益を被ることはないことを明記し、口頭でも説明した。

ポジティブ感情語の選定

それぞれの感情語のプロトタイプ性と理解度を評定するための感情語を、以下の手続きで選定した。まず、感情表現辞典(中村, 1979)と角川類語新辞典(大野・浜西, 1981)、およびインターネット上の言語検索サービスの Weblio 類語辞典(<http://thesaurus.weblio.jp/>)を用いて、ポジティブ感情語を検索した。さらに、ポジティブ感情を測定する尺度(佐藤・安田, 2001; 寺崎・岸本・古賀, 1992)や感情語に関する調査研究(落合, 1993, 1994; 菅原・杉江, 2015)からも積極的に収集した。本研究

では、ポジティブ感情語の理解度およびプロトタイプ性を幅広く検討するために、類似性が高いと思われる感情語（例えば、“幸せ”と“幸福”）であっても一方を除外せず使用した。ただし、語尾の微妙な違い（例えば、“楽しさ”と“楽しみ”）など、あまりにも似すぎていると思われる語に関しては、大学院生2名の話し合いの上、一般的によく用いられていると考えられる語のほうを採用した。

次に、上記の手続きを経て得た250語程度の語句について、同じ大学院生2名でポジティブ感情語としてのプロトタイプ性がありにも低いと思われる語句や、感情語としてふさわしくない語句がないかを協議し、最終的に216語を選定した²⁾。また、たらめな評定を防ぐために、“苦しみ”と“絶望”という、明らかにネガティブな感情語を2語加え、合計で218語について評定を求めた。

本調査の実施時期・調査方法

2015年10月から11月に本調査を実施した。調査方法は、全て個別配布・個別回収により実施した。質問紙への回答時間は15-30分であった。

質問項目

本調査では、提示する語がポジティブ感情に関するものであることを教示せず、質問紙のフェイスシートには“感情語についての質問紙調査”と表記した。質問紙に表記した感情語には、全て語句の上にかたかなでルビを振った。

まず、感情語の理解度について、“あなたは以下に提示した言葉の意味がどれほど分かりますか？”と教示した。調査協力者は、提示された感情について“全くわからない”（1点）から“非常に良くわかる”（6点）の6件法で評定した。

次に、ポジティブ感情としてのプロトタイプ性評定を求めた。ポジティブ感情の“ポジティブ(positive)”とは、主観的にその感情が気持ちの良いものであるかどうか(“good feeling”かどうか)という、いわゆる感情価(valence)を問題としていると言える(e.g., Kitayama et al., 2000; Shaver et al., 1987; Shiota et al., 2011)。そこで、本研究ではポジティブ感情語を、“感じたときに気持ちの良いポジティブな感情を表す言葉”として操作的に定義

した。そして、“あなたは以下に提示した言葉が、感じたときに気持ちの良いポジティブな感情を表す言葉だとどのくらい思いますか？”と教示した。調査協力者は、提示された感情について“全く当てはまらない”（1点）から“非常によく当てはまる”（6点）の6件法で評定した。

最後に、本調査の選定を漏れたポジティブ感情語がないかを補足的に検討するために、“あなたは上記の感情語以外にポジティブな感情を表す言葉として、どのような言葉が思いつきますか？”と教示し、自由に回答できる空欄を設けた。

結果と考察

まず、感情語のプロトタイプ性および理解度の平均値と標準偏差を算出した。そして、プロトタイプ性の高い語から順に Table 1 にまとめた。

本研究の目的は、本邦においてそもそものような感情語がポジティブ感情としてみなされているのかを明らかにすることであった。本研究では1点から6点までの6件法で回答を求めたため、プロトタイプ性の評定値の中央値(3.5点)を1つの基準に本邦のポジティブ感情語としてみなすことができるだろう。そして、その基準を満たす感情語は216語中175語であった。このことから、本研究で使用した感情語の多くがポジティブ感情としてみなされていることが分かった。

Table 1を見ると、“至福”、“幸福”、“大好き”、“明るい気持ち”、“喜び”、“やる気に満ちた”、“幸せ”、“歓喜”、“楽しさ”といった感情語が、本研究で定義したポジティブ感情語として高いプロトタイプ性を有していることが分かる。こうしたプロトタイプ性の高い感情語が、日本語における最も代表的なポジティブ感情、すなわち、ポジティブ感情のプロトタイプ(典型)であると言えよう。英語の感情語全体の感情としてのプロトタイプ性を、アメリカ人大学生を対象に検討した Shaver et al. (1987) では、love, happiness, passion, affection, ecstasy, joy, compassion, elation, excitement といった、日本語の幸福や喜び、愛情、熱情といった言葉に対応する感情語のプロトタイプ性が高く評定されている。Shaver et al. (1987) はポジティブ感情のみを対象とした研究ではないが、これらの英語の感情語は典型的なポジティブ感情であるという点で、本研究の結果はこの知見とも整合すると思われる。

また、これまで個別のポジティブ感情を検討してきた先行研究(e.g., Fredrickson, 2009; Shiota et al., 2014; Tong, 2015)に合致し、愉快(amusement)

2) 本調査では、不備のため“信頼感”と“希望”を質問紙内で2回記載していた。そのため、上記2語については、質問紙内で先に記述していた語に関する数値を使用した。また、“憧憬”についてはショウケイとドウケイの2つの読みがあるため、念のため1つの読みにつき1語ずつ質問項目に記載した。

Table 1
感情語のポジティブ感情としてのプロトタイプ性と理解度の平均値と標準偏差

感情語	プロトタイプ性		感情語	プロトタイプ性		感情語	プロトタイプ性	
	平均 (SD)	理解度 平均 (SD)		平均 (SD)	理解度 平均 (SD)		平均 (SD)	理解度 平均 (SD)
至福	5.70 (0.51)	5.28 (0.77)	親和	4.78 (0.65)	4.88 (1.05)	懐かしさ	4.15 (0.88)	5.53 (0.63)
幸福	5.70 (0.46)	5.63 (0.48)	誇り	4.78 (0.88)	5.28 (0.71)	恩に着る気持ち	4.15 (0.79)	4.75 (0.92)
大好き	5.68 (0.57)	5.73 (0.50)	愛おしさ	4.78 (0.65)	5.43 (0.70)	はにかみ	4.13 (0.60)	4.78 (0.94)
明るい気持ち	5.65 (0.53)	5.58 (0.63)	すっきりした気持ち	4.75 (0.58)	5.30 (0.75)	のんきな気持ち	4.10 (0.77)	5.23 (0.79)
喜び	5.65 (0.53)	5.65 (0.57)	恋愛	4.75 (0.73)	5.28 (0.92)	満愛	4.08 (1.08)	5.43 (0.70)
やる気に満ちた	5.63 (0.48)	5.58 (0.59)	熱意	4.73 (0.74)	5.28 (0.87)	平穩	4.08 (0.79)	5.35 (0.79)
幸せ	5.63 (0.53)	5.58 (0.59)	親愛	4.73 (0.71)	5.05 (0.89)	気長な気持ち	4.05 (0.67)	4.80 (1.00)
歓喜	5.53 (0.55)	5.35 (0.57)	和らいた気持ち	4.73 (0.74)	5.25 (0.73)	思慕	4.00 (0.92)	3.98 (1.13)
楽しさ	5.53 (0.50)	5.78 (0.42)	称える気持ち	4.70 (0.71)	5.18 (0.77)	憧憬 (しょうけい)	4.00 (0.92)	3.73 (1.26)
気持ちのよい	5.50 (0.55)	5.53 (0.55)	鼻が高い気持ち	4.70 (0.64)	5.30 (0.75)	慈悲	3.98 (1.17)	4.18 (1.07)
上機嫌	5.40 (0.54)	5.40 (0.62)	勝ち誇った気持ち	4.70 (0.81)	5.33 (0.65)	心服	3.98 (0.85)	3.03 (1.21)
勇気がわく気持ち	5.35 (0.61)	5.05 (1.18)	愛着	4.70 (0.84)	5.20 (0.95)	愉快	3.98 (1.11)	3.55 (1.28)
活気	5.33 (0.57)	5.25 (0.62)	興味深さ	4.68 (0.72)	5.43 (0.59)	照れ	3.95 (0.55)	5.65 (0.48)
快感	5.33 (0.72)	5.43 (0.67)	有難み	4.68 (0.91)	5.18 (1.12)	憧憬 (どうけい)	3.95 (0.92)	3.68 (1.47)
好き	5.33 (0.61)	5.68 (0.47)	気合のいれた	4.65 (0.69)	5.38 (0.66)	ゆるんだ気持ち	3.93 (1.17)	4.93 (0.93)
嬉しさ	5.30 (0.56)	5.70 (0.46)	のどかな気持ち	4.65 (0.57)	5.35 (0.61)	敬慕	3.90 (0.89)	3.95 (1.16)
光榮	5.28 (0.77)	5.30 (0.64)	正義感	4.63 (1.04)	5.20 (0.90)	崇める気持ち	3.88 (0.84)	4.90 (0.92)
好意	5.28 (0.59)	5.40 (0.62)	愛らしさ	4.63 (0.70)	5.20 (0.78)	仰ぎ見る気持ち	3.88 (1.00)	3.78 (1.39)
感動	5.25 (0.66)	5.58 (0.54)	熱愛	4.63 (0.80)	4.93 (0.82)	慕情	3.88 (0.87)	3.48 (1.26)
祝福する気持ち	5.25 (0.58)	5.25 (0.97)	見とれる気持ち	4.60 (0.89)	5.23 (0.79)	陶醉	3.80 (1.08)	4.63 (1.04)
わくわくした気持ち	5.25 (0.54)	5.50 (0.55)	厚意	4.60 (0.66)	4.25 (1.30)	平気	3.75 (0.83)	5.13 (0.93)
感激	5.25 (0.66)	5.40 (0.62)	うっとりとした気持ち	4.60 (0.80)	5.23 (0.91)	目を見張る気持ち	3.75 (1.11)	4.45 (1.20)
陽気	5.23 (0.65)	5.23 (0.82)	くつろぎ	4.60 (0.77)	5.48 (0.59)	自負	3.75 (0.97)	4.70 (0.95)
満足	5.23 (0.72)	5.50 (0.59)	ほっとする気持ち	4.58 (0.77)	5.50 (0.55)	心酔	3.68 (1.01)	4.65 (1.06)
元気	5.23 (0.72)	5.53 (0.63)	かわいらしさ	4.55 (0.95)	5.43 (0.92)	崇拜	3.68 (0.98)	4.90 (1.26)
極楽	5.20 (0.68)	4.93 (0.93)	賛美する気持ち	4.55 (0.74)	4.78 (1.01)	なげぶかい気持ち	3.65 (1.19)	4.30 (1.14)
向上心	5.20 (0.68)	5.23 (0.94)	慕う気持ち	4.55 (0.67)	5.28 (0.63)	憧憬	3.55 (0.97)	4.95 (1.02)
充実感	5.20 (0.90)	5.30 (0.64)	感服	4.55 (0.74)	4.45 (1.28)	慕望	3.50 (0.97)	5.13 (0.75)
自慢	5.20 (0.71)	5.48 (0.55)	恋しい	4.55 (0.74)	5.30 (0.68)	仰天	3.50 (0.67)	5.15 (0.82)
好奇心	5.20 (0.64)	5.70 (0.46)	尊敬	4.55 (0.67)	5.45 (0.67)	慣れしき	3.45 (1.00)	4.65 (0.82)
うきうきした気持ち	5.20 (0.64)	5.40 (0.70)	敬愛	4.53 (0.97)	4.50 (1.16)	機敏な気持ち	3.45 (0.80)	3.65 (1.24)
達成感	5.18 (0.63)	5.55 (0.50)	舞い上がる気持ち	4.53 (1.12)	5.25 (0.83)	昂然	3.45 (0.92)	2.30 (1.17)
機嫌のよい	5.15 (0.69)	5.68 (0.47)	楽観的な気持ち	4.53 (0.89)	5.38 (0.62)	切望	3.45 (0.92)	5.03 (0.91)
はつらつとした気持ち	5.13 (0.60)	4.95 (0.86)	情愛	4.53 (0.81)	4.25 (1.16)	見上げる気持ち	3.35 (1.04)	4.03 (1.42)
優しい気持ち	5.13 (0.71)	5.38 (0.70)	親しみ	4.53 (0.63)	5.40 (0.62)	悠長	3.33 (0.79)	4.23 (1.11)
愛情	5.13 (0.71)	5.55 (0.63)	夢見心地	4.50 (1.07)	4.98 (0.94)	羨ましき	3.33 (1.13)	5.53 (0.55)
快適	5.13 (0.64)	5.45 (0.50)	尊重	4.50 (0.77)	5.25 (0.70)	情欲	3.25 (1.09)	4.20 (1.40)
心地よさ	5.10 (0.83)	5.43 (0.74)	熱望	4.48 (0.71)	5.03 (0.91)	驚き	3.25 (0.92)	5.65 (0.53)
希望	5.10 (0.86)	5.30 (0.84)	和んだ気持ち	4.48 (0.81)	5.23 (0.76)	膝通	3.25 (0.99)	5.25 (0.73)
面白さ	5.08 (0.91)	5.63 (0.53)	憧れ	4.45 (0.86)	5.40 (0.58)	びっくりした気持ち	3.23 (0.77)	5.65 (0.53)
ときめき	5.08 (0.72)	5.25 (0.80)	恋しさ	4.43 (0.77)	5.35 (0.61)	頭が下がる気持ち	3.20 (0.93)	5.35 (0.69)
いとおいし気持ち	5.05 (0.80)	5.38 (0.66)	優越感	4.40 (0.99)	5.50 (0.63)	平然	3.15 (0.85)	4.95 (0.89)
快脚	5.05 (0.59)	5.15 (0.73)	恋愛	4.40 (1.04)	3.53 (1.32)	渴望	3.15 (1.04)	4.98 (0.94)
悄然	5.03 (0.65)	5.25 (0.92)	感心	4.40 (0.73)	5.35 (0.65)	畏敬	3.10 (1.07)	4.38 (0.91)
高揚感	5.03 (0.65)	5.25 (0.66)	得意がる気持ち	4.40 (0.99)	5.20 (0.78)	同情	3.08 (0.75)	5.38 (0.62)
さわやかな気持ち	5.03 (0.57)	5.30 (0.84)	奮起	4.40 (0.80)	4.93 (0.91)	驚愕	3.03 (0.72)	4.95 (0.95)
爽快	5.03 (0.65)	5.48 (0.67)	礼賛する気持ち	4.38 (0.91)	3.38 (1.24)	驚愕	3.00 (0.81)	5.30 (0.75)
すてきな気持ち	5.00 (0.77)	4.90 (0.99)	敬服	4.38 (0.97)	3.90 (1.18)	欲望	2.98 (0.94)	5.53 (0.59)
有能感	5.00 (0.77)	4.88 (0.95)	ゆったりした気持ち	4.38 (0.80)	5.25 (0.83)	畏まる気持ち	2.93 (0.82)	4.15 (1.17)
清々しさ	5.00 (0.74)	5.13 (0.87)	きっぱりとした気持ち	4.38 (0.73)	5.08 (0.85)	甘え	2.90 (1.16)	5.53 (0.77)
気力に満ちた気持ち	5.00 (0.74)	4.75 (0.99)	のんびりした気持ち	4.38 (0.73)	5.35 (0.65)	驚異	2.90 (0.97)	4.73 (1.26)
愛	5.00 (0.71)	5.28 (0.74)	強気な気持ち	4.35 (0.88)	5.45 (0.55)	高慢	2.80 (1.21)	4.73 (1.12)
心温まる気持ち	4.98 (0.76)	5.35 (0.69)	熱狂	4.33 (0.69)	5.25 (0.89)	恐れ入る気持ち	2.73 (0.81)	4.90 (1.20)
意気込む気持ち	4.95 (0.77)	5.23 (0.61)	恍惚	4.33 (1.15)	4.20 (1.10)	衝撃	2.73 (0.71)	5.33 (0.69)
好感	4.95 (0.84)	5.33 (0.69)	慈しみ	4.30 (0.93)	4.28 (0.97)	恐縮する気持ち	2.68 (0.85)	5.00 (0.87)
安堵感	4.95 (0.80)	5.38 (0.58)	気楽	4.30 (0.75)	5.23 (0.82)	恐れ多い気持ち	2.65 (0.88)	5.18 (0.63)
愉快	4.95 (0.59)	5.48 (0.67)	関心	4.30 (0.87)	5.20 (0.87)	思い上がり	2.63 (0.94)	5.15 (0.73)
信頼感	4.93 (0.72)	5.43 (0.63)	狂喜	4.30 (1.12)	4.80 (0.95)	ひれ伏す気持ち	2.58 (0.86)	4.65 (1.01)
感謝する気持ち	4.93 (0.69)	5.58 (0.54)	ゆっくりした気持ち	4.28 (0.67)	4.98 (1.06)	気負い	2.53 (0.84)	4.80 (0.87)
有頂天	4.90 (1.20)	5.13 (1.05)	目頭が熱くなる気持ち	4.28 (0.89)	5.20 (0.87)	いい気味	2.50 (1.20)	4.95 (0.92)
恋愛	4.90 (0.70)	4.58 (0.97)	興奮	4.25 (0.80)	5.55 (0.50)	しんみりした気持ち	2.48 (0.92)	5.05 (0.77)
安らぎ	4.90 (0.70)	5.33 (0.69)	恋い焦がれる気持ち	4.25 (0.83)	5.15 (0.82)	うぬぼれ	2.38 (0.86)	5.25 (0.83)
安息	4.88 (0.81)	4.98 (0.91)	感嘆	4.25 (1.04)	5.13 (0.78)	驕り	2.28 (0.97)	4.80 (0.87)
友好	4.88 (0.56)	5.25 (0.73)	敬重	4.25 (0.70)	5.05 (0.80)	ざまあみろという気持ち	2.18 (1.22)	5.55 (0.63)
誇らしい気持ち	4.88 (0.60)	5.30 (0.60)	じーんとする気持ち	4.23 (1.01)	4.78 (1.17)	虚栄心	2.18 (0.97)	4.45 (1.20)
絶賛する気持ち	4.85 (0.76)	5.28 (0.81)	おっとりした気持ち	4.23 (0.76)	4.83 (1.16)	動揺	2.18 (0.59)	5.50 (0.55)
感銘	4.83 (0.70)	4.90 (0.70)	敬う気持ち	4.23 (0.65)	5.23 (0.72)	傲慢	2.13 (0.81)	5.15 (0.82)
熱中する気持ち	4.83 (0.70)	5.48 (0.55)	落ち着いた気持ち	4.23 (0.88)	5.20 (0.75)	呆然	1.98 (0.61)	5.18 (0.67)
賞賛	4.80 (0.71)	5.33 (0.82)	専ぶ	4.23 (0.79)	5.15 (0.79)	屈服	1.98 (0.72)	4.90 (1.11)
期待	4.80 (0.71)	5.48 (0.55)	愉快	4.20 (1.10)	4.50 (1.26)	恥	1.95 (0.95)	5.70 (0.51)
安心感	4.78 (0.72)	5.45 (0.55)	ねぎらう気持ち	4.18 (0.67)	5.00 (0.81)	絶望	1.25 (0.43)	5.30 (0.81)
開放感	4.78 (0.69)	5.40 (0.80)	共感	4.18 (0.83)	5.15 (0.91)	苦しみ	1.23 (0.42)	5.45 (0.59)
鼓舞される気持ち	4.78 (0.99)	4.88 (0.87)	一目置く気持ち	4.18 (0.83)	4.88 (0.84)			

注)「絶望」と「苦しみ」といったネガティブな感情語についても、評定値も含めて裏にまとめた。

や満足 (contentment), 感謝 (gratitude), 興味 (interest), 鼓舞 (inspiration), 安らぎ (serenity), 希望 (hope), 奮起 (challenge), 安心感 (relief) といった英語圏の感情概念に対応すると思われる日本語も, そのほとんどが高いプロトタイプ性を示していた。そのため, 欧米圏の多くの先行研究と本邦において, 大部分はポジティブ感情概念として共通した感情であると考えられた。

一方で, awe の一般的な訳語である“畏敬”については, 本研究によればポジティブ感情としてのプロトタイプ性が高いとは言えない ($M=3.10$)。この結果が生じた理由の一つとして, 自分よりも圧倒的に大きく素晴らしいものを見た時のような“畏敬”の感情経験としての意味よりも, “畏 (恐れおののく)”という漢字自体の意味によって, ネガティブな感情であると評定された可能性が考えられる。武藤 (2014) では, 日本の大学生を対象に尊敬に関わる感情語18語の一対比較による意味的類似性評定を求め, 非計量的多次元尺度構成法により分析した結果, 畏怖や畏敬という言葉が, 憧れや敬愛といった他の尊敬に関わる言葉と比べて, 相対的にネガティブな感情価を持つ感情として解釈できることを示している。本研究の結果は, この知見と合致するものであると考えられる。本邦において“畏敬”がポジティブ感情としてみなされるかどうかについては, 今後, 更に検討する必要があるだろう。

また, 誇り (pride) に関しては, “光栄”や“自信”, “有能感”, “誇らしい気持ち”といった, いわゆる真正な誇り (authentic pride) に対応すると思われる感情語はポジティブ感情としてのプロトタイプ性が高かったのに対し, “高慢”や“思い上がり”, “うぬぼれ”, “驕り”, “傲慢”といった, 驕り (hubris) に対応すると思われる感情語はプロトタイプ性が低かった。これに関連して, 広い意味で愛情に関わる言葉であっても, “情欲”や“欲望”といった, 性的な願望 (sexual desire) に関わる一部の感情語も, プロトタイプ性が低いものが見受けられた。さらに, 感情価としてはポジティブであるとされるシャーデンフロイデ (Schadenfreude) に対応する“いい気味”や“ざまあみろという気持ち”も, 本研究ではプロトタイプ性が低かった。

このように, プロトタイプ性が低い言葉を見ると, 当事者が経験する感情価としてはポジティブであることが想定される感情語であっても, プロトタイプ性が低く評定されているものが少なからず見受けられる。このことは, 本研究で操作的に定義したように, 自身が気持ち良いかどうかということだけではなく, その感情を知覚し理解する周りの他者も

含めて気持ち良いかどうかということが, ポジティブ感情のプロトタイプとして判断されるか否かにおいても潜在的に重要である可能性を示唆している。日本に特徴的な感情であるとされる“甘え” (土居, 2007) という言葉のプロトタイプ性平均が2.90と低いのも, “(大学生にもなって) 他者に甘えてばかりではいけない”といった, 社会的望ましさに関わる要因が影響しているのかもしれない。

また, “慈悲”や“なさけぶかい気持ち”, “同情”といった, 慈悲 (compassion) に関わる語も, 本邦ではポジティブ感情としてのプロトタイプ性が相対的に低い傾向があることが示された。このことは, “慈悲”が, 苦境や困難にあえぐ他者など, ネガティブな事象に向けられることが多いからであると考えられる。

ポジティブ感情の理解度については, 概ね高い傾向が示された。理解度の低い語は, 現代では馴染みのないポジティブ感情語であると考えられる (例えば, “愉悦”)。理解度が低い理由としては, “憧憬”のように漢字が比較的難解な語であることや, “慕情”のように現代の大学生・大学院生にとって日常的に使用頻度が低い語であることが考えられる。今後, ポジティブ感情語に関する研究を実施する際には, 本調査で得られた理解度の評定値を基に理解度の高い語を使用することが望ましい。

次に, プロトタイプ性および理解度の総合得点を算出し, 年齢との関連を補足的に検討した。その結果, プロトタイプ性との相関は示されなかったものの, 理解度と年齢との間には正の相関が示された ($r=.26, p<.05$)。この結果から, 大学生・大学院生という限られた時期においても, 感情語の理解が発達や学習経験に応じて増していくと推察される。ただし, 実際にポジティブ感情語についての理解度が

Table 2
ポジティブ感情語についての自由記述の結果

明るい	あたたかい	ありがたい	安全
安楽	うきうき	嬉しい気持ち	おいしい
穏やか	快活	歓心	きれい
激励	元気	じん	しみいる
しみじみ	奨励	じんわり	素敵
清潔感	聡明	にこやか	ハッピー
万歳	悲嘆	朗らか	ほほえむ
ほんわか	やったー	豊かな気持ち	わくわく

注) 本研究で使用された感情語に非常に類似した単語についても結果としてまとめた。

推移していくかを明らかにするためには、個人を縦断的に検討したり、成人期や壮年期、老年期を対象にして同様の質問紙調査を行い、年代差を検討したりする必要がある。

また、ポジティブ感情語を表す他の語についての自由記述を Table 2 にまとめた。本研究では、ポジティブ感情語を極力網羅できるように辞書等を用いて収集をおこなったが、全てのポジティブ感情語を収集できてはいない。そのため、今後は、自由記述によって得られたデータをポジティブ感情語として加えることで、より幅広くポジティブ感情語を網羅することができると考えられる。

最後に、今後の課題を挙げる。本研究ではポジティブ感情のプロトタイプや理解度の検討を目的としたため、本邦において、ポジティブ感情が何種類程度に分類できるのかは定かではない。よって、今後は本邦におけるポジティブ感情概念の構造を検討していくことが文化差の観点からも重要な課題として挙げられる。Shaver et al. (1987) は、感情としてのプロトタイプ性が一定の基準を満たした135語の英語を用いて、感情概念の階層的意味構造を検討し、その上位カテゴリーや基本カテゴリーを明らかにしている。本邦においても、ポジティブ感情のプロトタイプ性の高い語を用いて、ポジティブ感情の階層的意味構造を検討することによって、その上位カテゴリーや基本カテゴリーを明らかにすることができると考えられる。ポジティブ感情は私たちの生活を彩り、自身の能力や様々な認知資源を拡張させ構築させる、人々の変化と成長に深く関わる感情である (Fredrickson, 1998, 2009)。そのため、本邦においてポジティブ感情の研究を積み重ねることで、ゆくゆくは日本人の幸福度の向上に寄与する知見を得ることにもつながるだろう。

引用文献

- Algoe, S. B., Haidt, J., & Gable, S. L. (2008). Beyond reciprocity: Gratitude and relationships in everyday life. *Emotion*, 8, 425-429.
- Berenbaum, H. (2002). Varieties of joy-related pleasurable activities and feelings. *Cognition and Emotion*, 16, 473-494.
- Campos, B., Shiota, M. N., Keltner, D., Gonzaga, G. C., & Goetz, J. (2013). What is shared, what is different? Core relational themes and expressive displays of eight positive emotions. *Cognition and Emotion*, 27, 37-52.
- Deci, E. L., & Ryan, R. M. (1985). *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior*. New York: Plenum.
- Diener, E., Diener, M., & Diener, C. (1995). Factors predicting the subjective well-being of nations. *Journal of Personality and Social Psychology*, 69, 851-864.
- 土居健郎 (2007). 「甘え」の構造 (増補普及版) 弘文堂
- Fredrickson, B. L. (1998). What good are positive emotions? *Review of General Psychology*, 2, 300-319.
- Fredrickson, B. L. (2009). *Positivity*. New York, NY: Crown.
- Griskevicius, V., Shiota, M. N., & Neufeld, S. L. (2010). Influence of difference positive emotions on persuasion processing: A functional approach. *Emotion*, 10, 190-206.
- Kitayama, S., Markus, H. R., & Kurokawa, M. (2000). Culture, emotion, and well-being: Good feelings in Japan and the United States. *Cognition and Emotion*, 14, 93-124.
- Kitayama, S., Mesquita, B., & Karasawa, M. (2006). Cultural affordances and emotional experience: Socially engaging and disengaging emotions in Japan and the United States. *Journal of Personality and Social Psychology*, 91, 890-903.
- Markus, H. R., & Kitayama, S. (1991). Culture and the self: Implications for cognition, emotion, and motivation. *Psychological Review*, 98, 224-253.
- 武藤世良 (2014). 尊敬関連感情概念の構造—日本人大学生の場合— *心理学研究*, 85, 157-167.
- 内閣府 (2008). 国民生活白書
- 中村 明 (1979). 感情表現辞典 東京堂出版
- 落合良行 (1993). 大学生における生活感情の分析 筑波大学心理学研究, 15, 177-183.
- 落合良行 (1994). 青年期における生活感情リストの作成 筑波大学心理学研究, 16, 119-127.
- 大野 晋・浜西正人 (1981). 角川類語新辞典 角川書店
- 齊藤崇子・中村知靖 (2003). 日本人における情動概念の階層構造 九州大学心理学研究, 4, 95-99.
- 佐藤 徳・安田朝子 (2001). 日本語版 PANAS の作成 性格心理学研究, 9, 138-139.
- Shaver, P., Schwartz, J., Kirson, D., & O'Connor, C. (1987). Emotion knowledge: Further exploration of a prototype approach. *Journal of Personality and Social Psychology*, 52, 1061-1086.

- Shiota, M. N., Neufeld, S. L., Danvers, A. F., Osborne, E. A., Sng, O., & Yee, C. I. (2014). Positive emotion differentiation: A functional approach. *Social and Personality Psychology Compass*, 8, 104-117.
- Shiota, M. N., Neufeld, S. L., Yeung, W. H., Moser, S. E., & Perea, E. F. (2011). Feeling good: Autonomic nervous system responding in five positive emotions. *Emotion*, 11, 1368-1378.
- 菅原大地・杉江 征 (2015). ポジティブ感情体験についての予備的検討 筑波大学心理学研究, 50, 59-68.
- 寺崎正治・岸本陽一・古賀愛人 (1992). 多面的感情尺度の作成 心理学研究, 62, 350-356.
- Tong, E. M. (2015). Differentiation of 13 positive emotions by appraisals. *Cognition and Emotion*, 29, 484-503.
- Tsai, J. L., Knutson, B., & Fung, H. H. (2006). Cultural variation in affect valuation. *Journal of Personality and Social Psychology*, 90, 288-307.
- (受稿 3 月 31 日 : 受理 4 月 26 日)